令和８年度全国学力・学習状況調査の結果

京都市立下鴨中学校

４月23日に、本校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語・数学・英語の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、 AI を活用して分析を行いました。生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

国語より

１　全体概況

平均正答率は、全国平均や京都府平均を上回る結果となりました。

【成果】

・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の全ての領域で全国平均を上回っている。
・記述式問題正答率 60.3%（全国平均 45.5%）
・話し合いの内容を理解し、自分の考えをまとめる力が身に付いている。
・文章を推敲したり、他者の助言を基に改善したりする力が育っている。
・無解答率が全国平均より低く、最後まで粘り強く取り組む生徒が多い。

２　領域別分析

最も強い領域・・・「書くこと」

「書くこと」の平均正答率は 78.2%で、全国平均 67.4%を 10.8 ポイント上回っています。

特に、表現を工夫して書く問題や、交流を基に文章のよい点や改善点を書く問題で高い成果が見られました。

これは、自分の考えを書く活動や話し合い活動、推敲活動が日常の授業の中で定着していることを示しています。

３　問題別の成果

漢字や語句の知識だけでなく、話し合いの内容を基に考えを書く問題、文章の展開の意図を読み取る問題、交流を基に改善点を考える問題など、思考力・判断力・表現力を必要とする問題で全国平均を大きく上回りました。自分の考えを整理し、根拠をもって表現する力が育成されていることが分かります。

４　質問紙との関連

質問紙調査では、「国語の授業の内容はよく分かる」87.1%、「国語の学習は将来役立つ」92.2%、「話し合いながら考えをまとめていた」93.1%、「助言を基に文章を改善していた」88.8%となり、いずれも全国平均を上回っています。これらの結果から、日常的な話し合い活動や推敲活動が、生徒の思考力・判断力・表現力の向上につながっていると考えられます。

５　課題として考えられる点

全体として良好な結果でしたが、語句や語彙の意味を文脈の中で捉える力には課題が見られます。特に、「ほうふつとさせる」と同じ内容を表す表現を抜き出す問題では、全国平均をやや下回りました。

この問題は国語辞典の語釈を参考に考える問題でした。本校では一人一台端末を活用した学習が定着しており、情報を効率的に検索する力が育っている一方で、紙の辞書の語釈や用例を丁寧に読み取る経験は以前より少なくなっている可能性があります。

今後は ICT 活用の利点を生かしながら、辞書を活用した語彙学習や読解活動も充実させていきたいと考えます。

６　まとめ

本校 ３ 年生の国語の平均正答率は全国平均 63.9%、京都府平均 65.0%を10ポイント弱上回る結果となりました。

特に、「書くこと」や記述式問題で高い成果が見られ、また、話し合い活動や推敲活動に関する質問紙結果も全国平均を大きく上回っており、日常の学習活動が学力向上につながっていることがうかがえます。

一方で、語彙や辞書活用に関する課題も見られました。今後は、表現力や思考力をさらに伸ばすとともに、語句の意味を正確に捉える力や語彙力の向上にも取り組み、より確かな国語力の育成を目指していきたいと考えています。

数学より

１　全体概況

平均正答率は、京都府（公立）平均や、全国（公立）平均を上回る結果となりました。

【成果】

・基礎的な知識・技能が定着している。
・全国・府平均との差がほぼ全問題でプラスとなっている。
・無解答率が全国より低く、最後まで取り組む生徒が多い。
・上位層の厚みが大きい。

２　領域別分析

最も強い領域…図形

特に

・平行条件を用いる問題
・図形の性質を用いる問題
・証明の前提を捉える問題

で高い結果が見られています。

これは、

・根拠をもって考える活動
・証明学習
・図形の性質の整理

が比較的定着していることを示しています。

３　問題別の成果

単なる計算問題だけでなく

・証明
・関数の活用
・資料の読み取り
・理由の説明

といった思考を伴う問題でも全国を大きく上回っています。

４　課題として考えられる点

結果は良好ですが、改善の観点では次の点が課題として考えられます。

・説明・記述問題の正答率
・証明問題の完全な記述
・データの特徴を言語化する力

数学的な根拠を明確にしながら説明する記述問題や、複数の情報を関連付けて考察した内容を表現する問題では、更なる向上の余地が見られる。

５　まとめ

本年度実施された全国学力・学習状況調査の結果、本校 ３ 年生の数学の平均正答率は、全国平均（57%）、京都府平均（58%）を上回る結果となりました。生徒たちが日頃の授業や家庭学習に真剣に取り組んできた成果が表れていると考えています。

特に、図形や関数の領域では大きく全国平均を上回り、基礎的な知識や技能だけでなく、学んだことを活用して考える力も身に付いていることが分かりました。また、確率や証明、グラフを用いた考察など、思考力や表現力が求められる問題でも全国平均を大きく上回る結果となりました。

一方で、問題の解き方や根拠を文章で説明する記述問題では、さらに力を伸ばす余地があります。生徒一人一人が「なぜそうなるのか」を考え、自分の考えを表現できる力を伸ばせるよう、授業において考えを説明し合う活動や記述活動を充実させ、数学的に表現する力の育成に努めてまいります。

英語より

1　全体概要

本校の平均正答数は、京都府平均 3.9 問、全国平均 3.7 問を大きく上回りました。また、平均 IRT スコアは、京都府平均 506、全国平均 499 を大幅に上回る結果となりました。さらに、学力上位層である IRT バンド 4･5 の生徒の割合は 63.6%（全国 28.6%）に達しており、本校生徒の高い学力水準が示されています。英語を「聞く」「読む」「書く」「話す」という各領域で、全国平均及び京都府平均を上回る結果が見られました。

2　領域別の成果

(1)聞くこと

ショッピングセンターのアナウンスから必要な情報を聞き取る問題：92.3%（全国 78.5%） 住みやすいまちづくりについての発表から要点を捉える問題：72.9%（全国 55.6%）

(2)読むこと

読む領域では、必要な情報を読み取る力が特に高く見られました。学校行事についての文章を読み内容を判断する問題：87.3%（全国 67.3%）条件に合うウェブサイトを選択する問題：85.0%（全国 63.8%）一方で、物語全体を通した登場人物の心情変化を読み取る問題は 48.6%で、全国平均 49.0%とほぼ同程度でした。

文章全体から人物の気持ちや変化を読み取る力には向上の余地があります。

(3)書くこと

書く領域では、自分の経験や考えを英語で表現する力が高い水準にあります。

中学校生活の思い出について書く問題：84.6%（全国 47.5%）

留学生との交流会で一緒にしたいことと理由を書く問題：70.0%（全国 44.0%）学校生活について説明を書く問題：64.1%（全国 27.8%）

全国平均を大きく上回っており、自分の考えや経験を英文で表現する力が身に付いていることが分かります。

(4)話すこと

本校生徒の英語「話すこと」に関する結果は、全国や京都府の平均を大きく上回る大変良好なものでした。この結果から、

「身近な話題について自分の考えを英語で伝える力」「相手の質問に応じて英語でやり取りを続ける力」「学習した表現を活用して発信する力」が着実に身に付いていることが分かります。

3　課題として考えられる点

本校は全体として非常に良好な結果でしたが、次のような課題も見られました。物語を読んで登場人物の気持ちの変化を読み取る問題（48.6%）では全国平均とほぼ同程度でした。また、社会的な話題について、自分の考えと理由を書く問題では正答率は高いものの、無解答率が全国平均よりやや高い結果でした。長めの文章を読み取り、内容を深く理解した上で自分の考えを論理的に表現する力については、さらなる向上が期待されます。今後は、文章全体の流れや登場人物の心情を読み取る活動、自分の意見や理由を詳しく述べるライティング活動の充実を図っていきます。

話すことでは、単に英文を答えるだけでなく、「理由や具体例を加えて説明すること」「相手の発言を受けて会話を広げること」「自分の考えを論理的に表現すること」が求められます。

今後も授業の中で英語を使った対話活動や発表活動を充実させ、生徒一人一人の「伝え合う力」をさらに伸ばしていきます。

4　まとめ

今回の調査では、本校生徒の英語力は京都府平均及び全国平均を大きく上回り、特に情報を正確に聞き取る力や読み取る力、自分の考えを英語で表現する力において高い成果が見られました。一方で、文章全体から心情や意図を深く読み取る力や、社会的な話題について自分の考えをより論理的に表現する力には、さらなる伸びが期待されます。今後も「英語で理解する力」と「英語で伝える力」の両面を伸ばし、実際のコミュニケーションの場で活用できる英語力の育成を目指して指導を進めてまいります。

生徒質問紙調査より

下鴨中学校の強み

①　学校生活満足度が高い

「学校に行くのは楽しい」肯定的回答 89.7%（全国 85.4%）

「幸せな気持ちになることがある」 肯定的回答 93.9%（全国 91.0%）

「先生はよいところを認めてくれている」 肯定的回答 92.3%（全国 90.9%）

→ 生徒と教師の関係が良好で、安心して学校生活を送れている様子がうかがえます。

②　学習に対する自己効力感が高い

国語が得意 56.1%（全国 51.6%）

数学が得意 56.9%（全国 48.5%）

英語が得意 50.0%（全国 39.5%）

→ 全教科で全国平均を上回り、学習への自信が高いことが特徴です。

③ ICT 活用への自信が高い

文章作成ができる 87.9%（全国 84.8%）

プレゼン資料作成ができる 83.6%（全国 80.0%）

情報整理ができる 75.8%（全国 69.4%）

→ ICT を活用した学習の成果が表れています。

④　思考･対話的な学習に強み

発表時に資料や話の組立てを工夫した 70.7%（全国 65.5%）

数学で説明する活動を行った 75.0%（全国 60.4%）

英語で問答･意見交換した 94.0%（全国 85.1%

→ 探究的な学習や表現活動が活発です。

⑤　家庭教育力が高い

1日に1時間以上家庭学習を行う生徒の割合が 69.0%（全国 61.6%）、家庭に 101 冊以上の本がある生徒の割合が 58.6%（全国 31.2%）、新聞を「ほぼ毎日読む」「週1～3回程度読む」生徒の割合が 18.9%（全国 6.2%）→家庭で培われた学習習慣や知的好奇心が、生徒の高い学力や学習意欲を支える基盤となっていると考えられます。

課題として考えられる点

①　スマホ･SNS 利用時間が長い

「SNS や動画視聴を 4 時間以上」 23.3% （全国 28.8%）

「1～2 時間利用」 24.1% （全国 16.9%）

また、3 時間以上利用層が 4 割を超えており、家庭でのメディアコントロールは継続課題と考えられます。

②　起床時刻の規則性

毎日同じくらいの時刻に起きる 90.5% （全国 92.4%）

→大きな差ではありませんが、生活リズム改善の余地があります。

③　読書習慣

「全く読書しない」33.6% （全国 40.7%）

→全国より良いものの、3 人に 1 人はほぼ読書習慣がありません。

④　将来の夢･目標　肯定的回答 63.8% （全国 67.6%）

→学力や学校満足度に比べると、キャリア意識はやや弱い傾向があります。

まとめ

下鴨中学校では、生徒が学校生活に満足し、先生や友達との良好な関係の中で安心して学ぶことができている様子がうかがえます。また、国語･数学･英語の学習に対する自信や、ICT 機器を活用する力が全国平均を上回っており、日頃の授業や教育活動の成果が表れています。さらに、自分の考えを伝えたり、友達と意見を交流したりする学習にも積極的に取り組んでおり、主体的･対話的な学びが育まれています。加えて、家庭学習の習慣や読書環境など、家庭の教育力の高さも、生徒の学習意欲や成長を支える大きな力となっています。

一方で、スマートフォンや SNS の利用時間の長さ、生活リズムの安定、読書習慣のさらなる定着、将来の夢や目標をもつことについては課題も見られます。今後も学校と家庭が連携しながら、生徒一人一人が規則正しい生活習慣を身に付け、自らの将来を主体的に考え、より豊かに成長していけるよう取り組んでまいります